

財団だより

多摩川

1999.12 第84号



カヤネズミ (ネズミ科)
体長5~7cm。草地の茂みに丸い巣を作り子を育てる。



リバーサイドウォーク '99.10.23 (第4回) 東急線多摩川園駅~京急線川崎大師駅

■多摩川現風景■

(40) リバーサイドウォーク

最近、川歩きが盛んになり、中高年の元気な若者が男女を問わず、歩き始めている。

小さな新聞記事、駅貼りポスターでの告知であるが、たいへん多くの人々が参加して、話題となっている催しがある。

多摩川中流から下流まで、多摩川沿いに歩く私鉄5社合同企画による「多摩川リバーサイドウォーク」が、6月から行われた。

54キロを4回にわけて、リバーサイドの近くを走る路線の私鉄が担当して、開催している。

第1回は、6月6日、西武拝島線の西武立川駅から京王線聖蹟桜ヶ丘駅までの約15キロを3~4時間かけて、ゆっくりマイペースで歩く。参加者は3,400名にのびたという。

第2回は、7月4日、京王線聖蹟桜ヶ丘駅から小田急線と泉多摩川駅までの約13キロ。

参加者は申込者3,000名+αであり、いずれも予想を大きく上廻る人数である。

快い川風に吹かれながら夫婦、恋人、子供連れ、友人同士、川沿いの道をゆっくり歩く。

バブルのはじけた今の社会にふさわしく、健康的で、あまりふところも痛まない経済的な行為でもある。

3回目は、9月25日、小田急線と泉多摩川駅~東急線多摩川園駅、約12キロ、参加者2,800名ほど。

最終回の4回目は、10月23日、東急線多摩川園駅~京急線川崎大師駅、約14キロ。参加者2,900名。

いずれも、出発駅で、9時半から10時半まで受付をすませ、各人、自由に歩き始める。簡単な地図ももらえるが、沢山の人が歩いているので、迷うことは、まずない。

不況のせいか、世の中が暗く感じられる昨今、健康的で、手軽な「川歩き」を楽しむ人が増えている。身近な自然に触れ、3時間も歩くと同行の家族の気持ちも一体になり、その後の家族関係もスムーズに行くようになるのではあるまいか。

●関連する財団の研究助成

〈学術研究〉

①多摩川における河川空間の整備に関する研究—河川敷の土地利用、利水、治水施設と河川空間の形成—

1978年 篠原 修 東京大学 (No.9)

②河川環境に関する計画的な研究—主として多摩川河川敷の保全利用について—

1982年 進士五十八 東京農業大学 (No.50)

〈一般研究〉

①多摩川河川敷を訪れる人々の住環境と多摩川流域の利用のあり方との関係について

1981年 喜多野薫 立花環境設計事務所 (No.18)

②環境教育、特にフィールドマナー（野外活動における倫理）の観点から捉えた多摩川の保全に関する研究

君塚芳輝 淡水魚類研究者 (現在研究中)

多摩川散歩

■多摩川シンポジウム

「多摩川を歩く」について

建設省京浜工事事務所

建設省京浜工事事務所では、昨年度から「多摩川シンポジウム 多摩川を歩く」と題し、多摩川を散策し、歴史・文化ならびに河川環境について啓発するイベントを実施しています。

これは数回のシリーズに分けて、多摩川の流域を歩いてみるもので、散策終了後には参加者と関係行政との意見交換会も開催しています。また、これらの様子をとりまとめたリーフレットを作成し、参加の記念として配布させて頂きました。

散策は、地域史研究家の方に案内人となって頂き、第1回目は多摩川右岸の二ヶ領用水を、第2回目は左岸の六郷用水を歩きました。また、今年11月には第3回目として羽村の玉川上水周辺を歩いて参りました。このような多摩川を木の幹に例えると、その枝葉にあたる支川や、末端の用水路

を歩き、周辺のまちづくりとの関わりや、人々がどのような恩恵を受けてきたか、いっしょに学ぶというのがこのイベントの主旨です。

意見交換会では、「多摩川21世紀への贈り物」をテーマにディスカッションを行い、川に対する参加者の思いや、感想など貴重な意見を出し合っていました。

以上、既に3回実施しましたが、募集段階からたいへん好評をいただいております、さらに内容の充実を図り、このような取組みを今後も行っていききたいと思います。

今回ご紹介しましたリーフレット『多摩川散策マップ』は、差上げておりますのでご希望の方は下記までご連絡ください。また、今後とも「多摩川シンポジウム」へのご参加をお待ち申し上げます。

◇問い合わせ先 建設省京浜工事事務所

☎ 045-503-4011

河川環境課 水質調査係 唐沢

二ヶ領用水を歩く 第一部

【散策MAP】

多摩水運橋
昭和40年に建設された橋。建設後約50年、災害対策特別区・建設省京浜工事事務所が、この橋を一日のうちにトンネル化して見たいという計画を立てている。

多摩川情報センター(旧)
平成10年3月オープン。旧多摩川水質調査センターの跡地に建てられた。

川崎市橋本センター
多摩川を流す川崎市の中心地。川崎市の歴史や文化を学ぶことができる。

蘆花橋
近江の「蘆花」が名付けた橋。

堤防跡
多摩川が暴発した際に、堤防が壊れてしまった場所。現在は公園として整備されている。

久地の橋土手跡
江戸時代、川崎の町に橋を架けようとしたが、土が足りなかったため、土を運ぶためにこの場所が選ばれた。

二ヶ領用水の仕組み
二ヶ領用水は、多摩川の水を、二ヶ領用水路を通じて、川崎市の各所に運ぶための用水路である。

二ヶ領用水の歴史
二ヶ領用水は、江戸時代からある。この用水路は、川崎市の発展に大きく貢献した。

二ヶ領用水の現状
二ヶ領用水は、現在でも川崎市の各所に使われている。この用水路は、川崎市の歴史と文化の宝である。

二ヶ領用水の未来
二ヶ領用水は、未来にも使われ続ける。この用水路は、川崎市の未来を支える。

▲多摩川を歩く～二ヶ領用水編～

私と多摩川



笠取山を背景に分水嶺にて('98.11.2)

川の未来探検隊 藤長 ひろ子

私は右岸から、多摩川の兵庫島周辺の四季折々の姿を見て暮らしています。国分寺崖線から陽が昇り、多摩川の上流方面に、真っ赤な夕日が沈む光景は、とても生命感に満ちています。また西に富士山を見ることも出来ます。早春の草花などは、歌人の心を捕らえます。夏の花火も見逃せません、秋は空気が冴え夜空の星も一段と輝いて見えます。冬は鳥達が雪景色の中を飛ぶ様子は、絵にも描く事が出来ない程です。

また、人々の活動も景観の中に、はまっています。一番面白いのは、やはり水の流量の変化です。台風の日などは、水嵩が増え、さらに勢いよく、まるで竜のように流れて行きます。

二子玉川園駅そばの「二子橋」より少し下流で多摩川に合流する、全長20.2kmの一級河川の〈野川〉と仙川、丸子川、谷川緑道を結んだ、生き物にやさしく、人にもやさしい、みんなに親しめる「水と緑のさんぽ路」という絵地図を、我が川の未来探検隊は作りました。約4kmのコースで、ゆっくり歩いて2時間位のさんぽ路です。

〈野川〉は国分寺市の日立中央研究所敷地内大池、国分寺境内の池、真姿の池などを水源とし、国分寺崖線に沿って流域の湧水を取り込みながら流れています。また野川下流域川型変更工事を、

現在コヤマドライビングスクールがあるあたりで、カーブしているのを、直線化する工事を8年計画で平成11年11月に着工されました。そして鎌田・宇奈根地区は、大量降雨時に生活排水が溢れることがしばしばあり、1時間の降雨量が50ミリでも対応できるように、川床を掘り下げ、老朽化した護岸を改修し、右岸の土手は遊歩道として整備されました。

〈仙川〉は小金井市貫井北町を水源とし、三鷹市の湧水や東部下水処理場の処理水を取り込みながら調布市を流れて世田谷に入り、鎌田3丁目で野川に注ぐ全長20.9kmの一級河川です。

〈丸子川〉は大蔵団地内の湧水や東名高速道路下の湧水を取り込んで流れていますが、谷沢川と合流以後は主に谷沢川の水を水源としています。(丸子川はかつて六郷用水として開削された農業用水路であり、開削者の名前をとって次大夫堀とも呼ばれた。現在各々公園として復元されています)

〈谷沢緑道〉は砧公園を縦断して流れる谷戸川が丸子川と交差する地点「下山橋」より下流部が谷川と呼ばれていました。かつては用水として付近の田畑をうるおしていましたが、昭和50年代以降区部の都市化に伴い暗渠とされ、緑道として整備されました。

川や水辺はその流域に生活する人々とのかかわりの中で歴史を刻んで来ています。「あばれ川」だった多摩川…その水害に苦しんだ人々が築堤運動に取り組みました。

こうして多摩川の水は、六十カ村の水田約二千ヘクタールに利用されました。そうして400年後の今日農業用水の役割を終えて、環境用水として再生されました。しかし、その堰や分水路の在りかを教えてくれる人も少なくなってきました。それだけに、「水と緑のさんぽ路」を訪れた人々が世田谷の貴重な遺産をそれぞれに身近に体験したり、水辺を楽しんだりすることができる、そんなさんぽ路でもあり、鳥・魚・虫・草花をたくさん見ることができる自然観察路でもあります。

よみがえ

甦れ！多摩川

■程久保川を歩く■

程久保川は日野市を東西に流れる一級河川である。浅川が多摩川に合流する地点に接して多摩川に流入する。

京王線の百草園駅を出て、商店街を500米ほど北へ歩いてゆくと、浅川橋にぶつかる。河口はそこから東へ200米ほどゆくところで、浅川と程久保川が一緒になって多摩川に流れこむ。

河口から多摩川の下流をのぞくと、「府中四谷橋」の斜張橋が優美なアーチを描いている。昨年12月に開通したばかりで、左岸側の府中市と右岸側の多摩市を結んでいる。

河口には、程久保川から流れをとりこんでワンドがつくられている。ワンドの岸辺は木杭で固められている。多様な生物の棲家がこのワンドの誕生でできあがった。「浅川勉強会」などの市民グループが行政に働きかけ、行政もそれに応じた結果実現したものである。

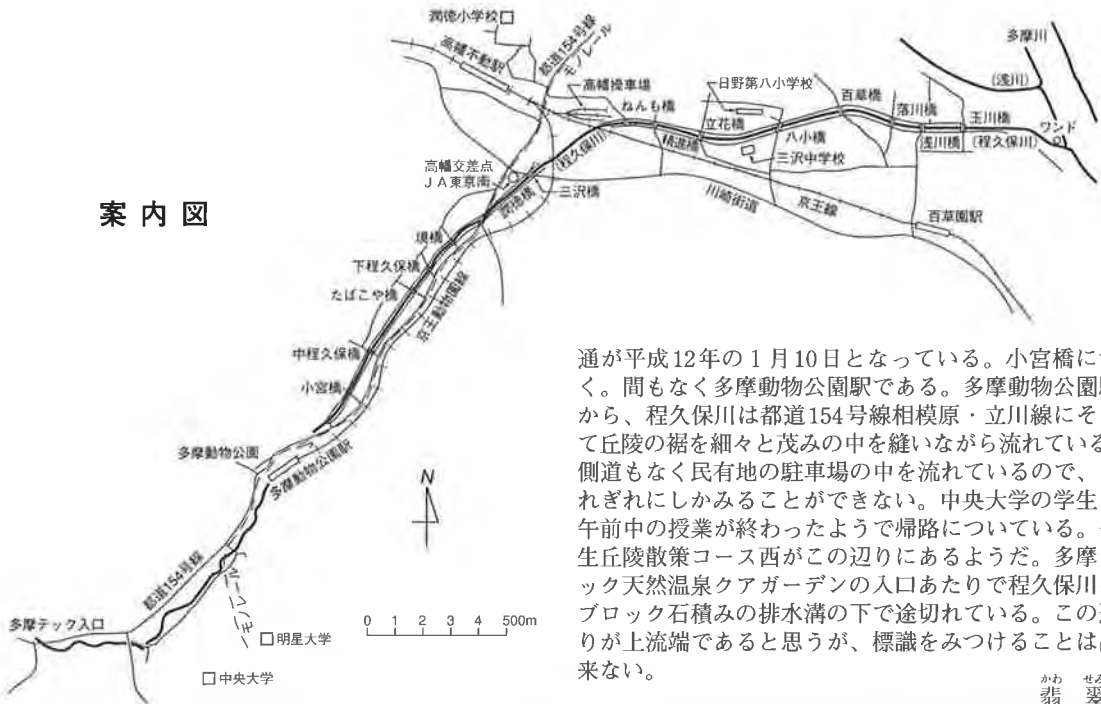
日野市は浅川、多摩川に接し、水の郷と言えるほど清流に恵まれている。市民も日野市もこの恵まれた環境を保全することに熱心である。

程久保川の中流の北側にある潤徳小学校では、学校の傍に向島用水の流れを引き込み水辺の楽校を実現している。この学校の生徒さんは身近に、ピオトープを体験することができるのである。環境学習が本当に生きることになる。「みんなの参加で程久保川クリーンデイ」というポスターがフェンスに懸けてある。

河口から上流へ歩き始めて最初の橋が玉川橋である。この辺りは環境庁の指定する「鳥獣保護区」になって

いる。側道には大理石状の石の椅子がいくつか置いてあり、夏は涼しそうだが、季節によってはお尻が冷えて困るのではとちょっと気になる。敷石もしゃれた素材のものが敷いてあり、なかなか優雅なプロムナードである。浅川橋、落川橋と進む。左岸の排水溝からは、きれいな水が豊かに流れ落ちている。水の落ち口には鯉が群がっている。歩道には浸透性の舗装が施されていて茶褐色の砂礫がまだらに敷かれている。砂礫がまんべんなく敷き詰めてある状態に保つのは大変そうである。百草橋のたもとには公園があり、お母さんがこどもを遊ばせている。川に下りる階段があるが、出入りできないよう閉鎖されている。八小橋につく。左岸に日野第八小学校、右岸に三沢中学校がある。八小橋の下の茂みにはコサギとカモが仲良く遊んでいる。立花橋辺りの水は濁っている。精進橋から「ねんも橋」に至り、京王電鉄の高幡操車場に面しており、川にそって歩けないので、川から離れて迂回する。高幡不動駅の手前に工事中の多摩モノレールの路線と駅がある。高幡立体のトンネルを通過して川崎街道の高幡交叉点に出て程久保川を探す。JA東京南の建物の裏あたりで川に再会する。三沢橋から右岸をさかのぼる。カワセミなど川にちなんだ動植物の写真のパネルがフェンスに取付けてある。潤徳橋、境橋、下程久保橋、この辺りでは堰が何段もあり、川が急に登って行くのがわかる。側道には芝生が植えてあり、ゆったりした感じで気持ちが良い。「たばこや橋」という珍しい名前の橋がある。警備会社のガードマンの人が芝生に寝転がって昼休みをとっている。中程久保橋が側道の上を通過している。多摩モノレールが川にそって工事中である。京王線の多摩動物公園駅の先に、モノレールの多摩動物公園駅がある。多摩センター駅から立川北駅までの開

案内図



通が平成12年の1月10日となっている。小宮橋につく。間もなく多摩動物公園駅である。多摩動物公園駅から、程久保川は都道154号線相模原・立川線にそって丘陵の裾を細々と茂みの中を縫いながら流れている。側道もなく民有地の駐車場の中を流れているので、きれぎれにしかみることができない。中央大学の学生が午前中の授業が終わったようで帰路についている。七生丘陵散策コース西がこの辺りにあるようだ。多摩テック天然温泉クアガーデンの入口あたりで程久保川はブロック石積み排水溝の下で途切れている。この辺りが上流端であると思うが、標識を見つけることは出来ない。

かわ せみ 翠

首都圏における多摩川およびその流域の環境浄化に関する 基礎研究、応用研究、環境改善計画のための研究、募集

財団法人とうきゅう環境浄化財団（会長 横田二郎）は、昭和50年度より多摩川およびその流域の環境浄化を促進するために必要な研究を毎年公募してきました。既に375件の研究に助成金を交付し、296件の研究成果が完成しています。

平成12年度も従来と同様、意欲的な研究を募集いたします。

記

1. 研究対象者

学識経験者の方はもちろん、一般の方でも研究に意欲のある方であれば、どなたでもご応募いただけます。

2. 研究対象テーマ

- ① 産業活動または住生活と多摩川およびその流域との関係に関する調査および試験研究
- ② 排水・廃棄物等による多摩川の汚染の防除に関する調査および試験研究
- ③ 多摩川およびその流域における水の利用に関する調査、試験研究
- ④ 多摩川をめぐる自然環境の保全、回復に関する調査、試験研究

3. 応募方法 当財団所定の申請用紙をご請求され、学術研究・一般研究いずれかを選択して、ご申請下さい。

4. 助成の決定 平成12年3月の当財団選考委員会にて選考のうえ、理事会で決定。

5. 研究の種別

| 研究の種別 | 学術研究 | 一般研究 |
|-----------------|--|--|
| 研究の性格 | 環境問題改善のための調査研究で、専門性が高く、その分野の学識経験を必要とするもの。 | 環境問題改善のための調査研究で、一般の市民が、特別の学識経験を必要とせず取り組めるもの。 |
| | (財団の過去の事例を参照) | |
| 1件当たりの助成金総額の上限額 | 600万円 | 300万円 |
| 単年度の助成金上限額 | 300万円 | 150万円 |
| 研究期間 | 最長3ヶ年 | 最長3ヶ年 |
| 助成対象費目 | (1) 器具備品費 研究に必要な機器（装置）、器具、備品等。 研究機関（大学等）に所属されてる場合は、原則対象外。 (2) 消耗品費 調査研究に用いる各種材料、部品、薬品等。 (3) 旅費 調査研究のための交通費、宿泊費等。 (4) 謝金 調査研究のために臨時に雇った人の謝金等。 (5) その他 機器・備品等の借料、通信費、会議費、その他。 | |

6. 公募締切日 平成12年1月17日

※応募についての詳細は、次頁の財団事務局にお問い合わせ下さい。

▶▶▶ 寄贈文献の紹介 ◀◀◀

・「都市河川の総合親水計画」
著者 土屋十圀 1999年 (株)信山社サイテック

著者が河川行政に長年携わってきた実践を通して全国の親水公園の実態を調査し、河川工学、景観工学を土台に、河川生態学、環境水理学に踏み込み総合的な新水河川計画の手法を解説している。

・「すぎなみ水紋様－玉川上水－」
著者 恩田政行 1999年 (株)青山第一出版

玉川上水の開削の歴史的背景と変貌の経緯、すぎなみ地域内の玉川上水約7.5km（牟礼橋から代田橋跡）の分水と農業用水等を豊富な写真を用いて紹介している。

第5回 助成研究ワークショップを終えて

国連大学の改修工事のため、例年より遅く8月27日、財団主催による第5回「助成研究ワークショップ」が行われました。

今年のテーマは「河川における有害化学物質」でした。

最近、外因性内分泌かく乱化学物質＝環境ホルモンの存在がにわかに注目されるようになりました。1960年代にレイチエル・カーソンは「沈黙の春」を書き、殺虫剤DDTの野生生物の生命に対する有毒性、人に対するガン促進性などを指摘していますが、ホルモン作用にまでは言及していません。

しかし、科学者の直感として、生物の生殖異常、子宮内の胎児に対する化学物質の影響への危惧をいくつかの事例をあげて予想しています。

1996年に出版されましたシーア・コルボーンなどの共著による「奪われし未来」の中では、ごく微量の化学物質が、生物の微妙なホルモンバランスを乱し、オスがメス化したり、精子が減ったりするなど、生殖行動を狂わせてしまうことが述べられています。

当財団における助成研究においても90年代の始めから河川における有害化学物質に関する研究がみうけられます。有害化学物質の最近の状況に先駆けた取組みであると思われます。

それらの研究の中、今回のワークショップでは、3人の研究者を選び、報告、質疑、提言などによるワークショップを行いました。

財団理事長、新井喜美夫の挨拶に引き続き、前半は研究者による報告が次のように行われました。

報告1 「多摩川水系の底質および水棲生物中のダイオキシンの分布に関する研究」

小野寺祐夫（東京理科大学）

報告2 「大気降下物による多摩川流域への汚染有機物の負荷に関する研究」

森永 茂生（桐蔭横浜大学）

報告3 「多摩川河口・下流域の魚介類内分泌かく乱物質（有機スズ化合物とポリオキシエチレンアルキルフェニールエーテル系中性洗剤）汚染に関する研究」

大槻 晃（東京水産大学）

コーディネーターは芳村、コメンテーターは東京農工大学の小倉紀雄教授にお願いいたしました。

このワークショップの狙いは、最近にわかにくローズアップされてきている内分泌かく乱化学物質＝環境ホルモン問題についての直接的、概観的な関わりではなく、むしろ、現場での一つの分野の作業がいかになされているかを紹介する意味がありました。研究報告は多少難解なところもありましたが、参加者の皆様は熱心にメモをとりながら聞き入っておられました。

後半の質疑応答も、多数の参加者がおられ、よい質問がみうけられました。

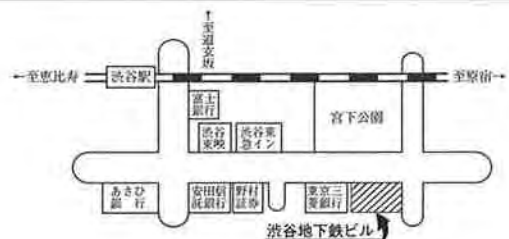
最後の小倉先生のコメントも、先生の専門分野でもあり、現場を知った研究者の一人でもある立場での的確な指摘とこれからの研究の方向を示唆するたいへん有益なものでした。

全員の協力もあり、ほぼ予定の時間でワークショップは終了しました。

今年も、100名の定員に対して200名以上の申込があり、全員の参加のご希望を叶えられず、主催者として、たいへん申し訳無く感じております。

これからも、財団の助成研究が時代に先駆けて、環境問題の解明に役立つことを希望したいと思います。

- 発行日 平成11年12月1日
- 編集兼発行 (財)とうきゅう環境浄化財団
〒150-0002 渋谷区渋谷1-16-14
(渋谷地下鉄ビル内)
TEL (03) 3400-9142
FAX (03) 3400-9141



*印刷所 雄文社 〒336-0001 浦和市常盤9-11-1 TEL (048) 831-8125